

1. 事務局メールアドレス変更のお知らせ

2024 年 4 月 15 日 (月) より事務局代表メールアドレスが新しくなりました。

新アドレス: jsp.office@pathology.or.jp

旧アドレス: jsp-admin@umin.ac.jp

旧アドレスもしばらく受信可能ですが、事務局からは新アドレスにて発信/返信いたします。

2. 令和 6 年度定時社員総会報告

令和 6 年 5 月 17 日 (金) 開催の令和 6 年度定時社員総会 (富士ソフトアキバプラザ 7F プレゼンルーム) において以下の件が承認されました。

(1) 令和 5 年度収益事業会計収支決算について

同定時社員総会において、令和 5 年度収益事業会計収支決算が承認されました。

正味財産増減計算書 (収益事業分)

2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで  
(単位: 円)

科 目	収益事業合計
I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
基本財産運用益	0
特定資産運用益	0
特定資産運用益	0
特定資産受取利息	0
受取会費	0
学術評議員受取会費	0
一般会員受取会費	0
終身会員受取会費	0
病理専門医部会費	0
海外会員年会費	0
事業収益	63,272,965
学術集会収益 (展示会セミナー収益)	59,774,750
賠償保険事務収益	3,498,215
受取委託収益	0
受取委託収益	0
受取補助金等	0
受取寄付金	0
受取寄附金	0
雑収益	8,785,531
受取利息	183

雑収益	0
PI ロイヤリティ	8,650,428
著作権使用料	134,920
経常収益計	72,058,496
(2) 経常費用	
事業費	60,207,297
消耗品費	0
印刷製本費	8,140,000
支払手数料	266,820
学術集会会場費	2,482,071
学術集会設営費	24,852,818
学術集会人件費	7,264,683
学術集会業務委託費	4,419,925
学術集会広告費	570,511
学術集会印刷費	0
学術集会会議費	3,955,152
学術集会 WEB 開催費用	724,669
学術集通信運搬費	0
学術集会諸費用	7,530,648
管理費	432,548
租税公課	432,548
経常費用計	60,639,845
評価損益等調整前当期経常増減額	11,418,651
法人税等	2,783,600
当期経常増減額	8,635,051

(2) 令和 6/7 年度役員選任について

同定時社員総会において、標記役員が選任されました。  
任期は同日から令和 8 年度定時社員総会 (札幌)・令和 8 年 4 月までです。

○理事: 20 名

全国区選出理事/理事長	小田 義直
全国区選出理事	森井 英一
全国区選出理事	田中 伸哉
全国区選出理事	佐々木 毅
全国区選出理事	大橋 健一
全国区選出理事	都築 豊徳
全国区選出理事	豊國 伸哉
全国区選出理事	金井 弥栄
全国区選出理事	牛久 哲男
全国区選出理事	伊藤 智雄
全国区選出理事	谷田部 恭
口腔部会長/理事	清島 保
北海道支部長/理事	樋田 京子
東北支部長/理事	大森 泰文

関東支部長／理事	笹島ゆう子
関東支部選出理事	矢持 淑子
中部支部長／理事	宮崎 龍彦
近畿支部長／理事	羽賀 博典
中国・四国支部長／理事	増本 純也
九州・沖縄支部長／理事	久岡 正典

○監事：2名

監事	伊藤 浩史
監事	九嶋 亮治

### 3. 日本病理学会 100 周年記念病理学研究新人賞授賞式の御報告

病理学の健全な発展のためには、臨床側面である病理診断だけでなく、その基盤となる病理学研究も診断の修練と同様に大いに推進する必要があります。しかるに昨今の若手医師における研究指向者の激減は憂慮すべき問題です。この問題を少しでも解決するために、日本病理学会創立 100 周年記念事業の一環として、日本病理学会 100 周年記念病理学研究新人賞が、医師・歯科医師で 33 歳以下の病理学関連講座大学院博士課程在籍者（MD/PhD コースの大学院博士課程在籍者も含む）を対象として平成 23 年度から設けられました。

令和 5 年度は 4 名の応募者があり、全員が 1 次審査を通過し 2 次審査に臨みました。第 113 回日本病理学会総会第 1 日目午後 2 次審査を実施し、以下の 3 名のみなさんの受賞が決定しました。ますますの研究の発展を祈念します。今年残念ながら落選されたみなさんも、また新たな仕事の進展があった大学院生のみなさんも、来年仙台で是非挑戦していただきますようお願いいたします。



令和 5 年度受賞者（写真一番左は小田義直理事長，左から右，一番右は豊國仲裁会長）

塚本 修一（神戸大学）

食道扁平上皮癌細胞とマクロファージの直接接触を介した相互作用の解析

岸野 祐也（東京大学）

FUS プロテオパチーにおける神経変性機構の解明

杉田 佳祐（東京医科歯科大学）  
間接的 CRISPR screening 法の確立と細胞間相互作用による薬剤耐性遺伝子の同定

病理医・研究医の育成とリクルート委員会  
委員長 宮崎 龍彦

### 4. 第 20 回病理学会カンファレンスについて

標記カンファレンスの HP を公開いたしました。

会 期：2024 年 7 月 26 日（金）・27 日（土）

会 場：山形テルサ アプローチ

世話人：二口 充（山形大学医学部病理学講座）

HP：https://square.umin.ac.jp/jspc20/index.html

### 5. フィレンツェ大学病理 訪問ツアーのご案内

9 月 7 日～11 日にイタリア・フィレンツェで開催されるヨーロッパ病理学会にあわせ、フィレンツェ大学病理学教室を訪問する企画をたてました。

海外の病理学教室で、日常の病理診断がどのように行われているのか、検体処理からスライド作成、病理診断、若手病理医の教育システムなどを実際に現地で見学します。

参加ご希望の方は、日本病理学会事務局までご連絡ください。なお、見学にかかる実費は全て自己負担となりますのでご了承ください。

詳細は以下 HP をご確認ください。

<https://www.pathology.or.jp/news/whats/tour-240513.html>

### 6. 「デジタル病理画像を用いた病理診断のための手引き（第二版）」および「病理診断のためのデジタルパソロジーシステム技術基準 第 4 版」の策定について

この度、日本病理学会では、デジタル技術や情報通信技術の進歩や新たな知見等の報告を受け、既に発行している「デジタル病理画像を用いた病理診断のための手引き」（2016 年）、「デジタルパソロジーガイドライン」（2018 年）および「病理診断のためのデジタルパソロジーシステム技術基準 第 3 版」（2019 年）を統合し、新し手引き（第二版）、新技術基準（第 4 版）を策定いたしました。

改訂版を公開いたしましたので、ご閲覧いただければ幸いです。

なお、デジタルパソロジーにて病理診断を行い診療報酬を請求されているご施設では、準拠していただく内容が示されていますので、必ずご一読のほどよろしくお願いたします。

詳細は以下 HP をご確認ください。

<https://www.pathology.or.jp/jigyou/-4.html>

## 7. 胃癌 CLDN18 タンパク免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製の保険収載のお知らせ

胃癌において CLDN18 を標的とした分子標的治療が実用化されました。

胃癌患者において、病理組織検体を用いた CLDN18 タンパク免疫染色（免疫抗体法）が、抗 claudin18.2 抗体薬ゾルベツキシマブの適応を判定するための、体外診断用医薬品（コンパニオン診断薬）として用いられます。

詳細に関しては、以下をご参照ください。

保険収載に関して

[https://www.pathology.or.jp/jigyou/Claudin18\\_document.pdf](https://www.pathology.or.jp/jigyou/Claudin18_document.pdf)

\*収載日：2024年5月1日より

\*保険収載名称：CLDN18 タンパク免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製（免疫染色）

「第13部 病理診断」

\*点数：2,700点（「N005-3 PD-L1 タンパク免疫染色（免疫抗体法）病理組織標本作製」の点数2,700点を準用）

体外診断用医薬品（コンパニオン診断薬）としての承認

\*承認日：2024年3月14日

\*試薬販売開始日：2024年6月3日

試薬販売等の詳細は以下をご参照ください。

[https://www.pathology.or.jp/jigyou/PL-2024-P027\\_information.pdf](https://www.pathology.or.jp/jigyou/PL-2024-P027_information.pdf)  
・2024年5月22日（水）抗 claudin18.2 抗体薬ゾルベツキシマブの薬価収載が中医協で承認されました。

「バイオマーカー検査の手引き」に関しては、以下 URL をご参照ください。

<https://www.pathology.or.jp/news/whats/-1.html>

## 8. 分子病理専門医関係の講習会について

分子病理専門医専門医制度運営委員会では、管轄する分子病理専門医関係の講習会を整理し2024年度より以下のとおり開催することといたしましたのでご案内申し上げます。以下の整理表もご参照ください。

病理学会会員は全ての講習会を受講可能です。ご興味があれば是非ご受講ください。講習会の日程は決まり次第、講習会ページと病理学会ホームページの新着情報に掲載いたします。

ご不明な点がございましたら日本病理学会事務局までお問い合わせください。

### 「分子病理専門医講習会」

目的：分子病理専門医受験者のための講習会

対象：分子病理専門医受験予定者

内容：分子病理専門研修カリキュラムに沿った内容

単位等：分子病理専門医受験までに最低1回の受講が必要、なお分子病理専門医試験は、同年開催の分子病理専門医講習会から出題する

### 「分子病理専門医更新講習会」

目的：分子病理専門医の知識・技術の向上

対象：分子病理専門医更新者（広く病理専門医・口腔病理専門医も受講可）

内容：新技術の紹介や更新すべき知識、医療制度、II型問題・過去問解説（更新申請年度の講習会提示II型過去問組織症例は、更新の際のエキスパートパネルレポートの作成に使用可能）

単位等：病理専門医＝領域講習4単位、分子病理専門医＝次回の更新までの期間に最低1回の受講が必要

### 「分子病理診断講習会：分子病理を学びたい人のために」 2024年度より名称変更

（旧名称 分子病理 Up to Date 講習会）

目的：主に実診療に役立つ分子病理診断（Molecular classification）に関する知識・技術の習得を目指す講習会

対象：専攻医・病理専門医・口腔病理専門医を対象とするが、広く分子病理診断に関する知識の習得を希望する病理医を対象

内容：臓器別分子病理診断。保険収載が予定されている病理遺伝子診断の対象となる臓器を中心として、毎年4～5程度の臓器を対象とした講習を行う

単位等：病理専門医＝領域講習4単位、病理専攻医＝分子病理診断および分子病理学に関する講習の一つ

※日本病理学会総会（春）で2023年度まで開催されていた「分子病理診断講習会」（管轄 研究推進委員会）は2024年度より「先端的分子病理学講習会」に名称が変更となりました。「分子病理診断講習会」（担当 研究推進委員会）と「分子病理診断講習会：分子病理を学びたい人のために」（管轄 分子病理専門医制度運営委員会）は別の講習会です。

参照 HP：

<https://www.pathology.or.jp/senmoni/bunshi/2024mp-koushu.html>